

⑤ ラブ・オーシュリ 著

『英語のゴールデンルール』

(新日本教育図書)

英文語句のつながりがわかりにくく、英語を訳す時に苦労することはないでしょうか。英語は日本語とは構造が異なっていて、日本人が理解するには難しいことが少なくありません。

本書では、英語文を、「動詞文」や「wh疑問文」など6種類の文型に分け、様々な例文を使って説明しています。英語文の構造がよくわかり、英語を学ぶ方々にお勧めの一冊です。

835-Oec (S.I.)



⑥ 池井優 著

『駐日アメリカ大使』

(文藝春秋)

1952年4月28日に、戦後初の駐日大使となるマーフィー大使が着任しました。本書は、戦後の13人の駐日アメリカ大使を時代順に紹介しています。彼らは職業外交官6人、政治家4人、財界人2人、学者1人です。

さながら、現在の日米関係の問題点が何時起こったのか、日米関係の歴史を分かりやすく時代を追って理解できるものです。

特に激動期に大使を務めたダグラス・マッカーサー 世(1957年2月～1961年3月在職)については、淡々と述べられており、大使の仕事の内容、外交についても多角的に分かりやすく説明されています。

319.1053-Ike (S.O.)

⑦ 塩野米松 著

『イギリス職人ばなし』

(晶文社)

20世紀における経済の高度成長は、産業の発展をもたらしました。そして日本の町や村から職人の手仕事が消えゆく中、伝統を重んじ、古き良き物を大切にす国民性のあるイギリスで、職人たちが今どのようにしているのか確かめるべく、著者がピヤ樽職人、箒職人、釘鍛冶、鞆づくり職人、コラクル舟職人、バスケット職人、屋根葺き師、町の鍛冶屋職人など8人の職人に話を聞いた書です。

皆さんも、一度イギリスの職人氣質に触れてみてはいかがでしょうか。

384.38-Shi (N.I.)



⑧ 東京大学東洋文化研究所 編

『アジアを知れば世界が見える』

(小学館)

アジアには過去において、中華、ヒンズー、イスラム等世界文明の軸といわれる文明が起こっているが、現在では国際政治や経済の面で、世界の主要国の直接利害が関与する戦略的にも重要な地域となっている。

本書はアジアが世界に占める位置、役割、また影響力、そして将来の展望等を政治、経済、宗教、美術、歴史、人と暮らしの面から洞察し、世界の平和と安定的発展のためにもアジアを知ることは益々重要となることを示唆している。

292-Ajia (T.K.)